

報告日 令和8年1月21日

報告回次 3日目

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	輪之内町			代表者名	朝倉 和仁
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	企画財政商工課	連絡先電話番号	0584-69-3126
担当者役職	主査	担当者氏名	市橋 絵利加	連絡先E-mail	
住所	5030292 岐阜県輪之内町四郷2530-1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	庁内のDX機運醸成研修事業		
概要	DXの意義を理解し、変革を自ら推進する思考と行動力を身につけ、自発的にDX推進に挑む意欲を高めるための研修				
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成）				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1.

対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和8年1月15日	講演(実地)	8時30分	17時00分	60
				活動時間（分）	450

2-2.

派遣場所	会場名	輪之内町役場	最寄駅	岐阜羽島駅
	所在地	岐阜県安八郡輪之内町四郷2530-1	最寄駅からの交通手段	バス

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	長尾 飛鳥
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	本研修を通じて、管理職層に見られた「DXは難しそう、ついていけない」という意識が、業務フローの見直しや無駄な業務の削減など、現場で直ちに取り組める改善こそがDXにつながるという認識へと変化した。また、生成AIの実践を交えた研修により、AIやデジタルツール活用への関心が高まり、内部業務の効率化にとどまらず、住民・利用者目線で考えることがDXの判断する上での重要な視点であるという意識付けができた。さらに、DX推進先進自治体の職員からの成功事例の紹介や助言は、具体的に参考になる内容が多く、非常に効果的な研修となった。
アドバイザーへの要望事項	来年度の生成AI導入に先立ち、今年度管理職を対象にトライアルを実施したが、活用の広がりには課題が見られた。新しいツールの利用に抵抗感をもつ職員もいることから、生成AIを実務にどのように活用できるのかを具体的に理解し、業務改善につなげるための実践的な研修を実施したい。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者

属性	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	40人
	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
人数	40	0	0	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	○人事異動が頻繁（3年程度）なため、担当者が業務を理解し、変革を考える頃に交代してしまう。 ○人事異動がない専門職（管理栄養士、児童発達支援教室の先生など）の業務にアナログな部分が多く残っている。 ○職員数が少ないため、現場対応が多く、情報システム担当が席を離れられない。問い合わせ対応や端末更新作業なども担当し、負担が大きい。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	○業務フローを見直して無駄な業務をやめる。 ○ODX化により、住民の利便性の向上を図る。業務フローの変革により窓口対応のサービス充実につながる。時間外勤務の削減で職員のモチベーションも向上する。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	○DXの推進に必要なのはツールの導入ではなくゴールを明確にすること、また1番の変革は業務の無駄をなくすることという考え方。 ○共創プラットフォームの活用方法(他市町村との情報共有) ○生成AIの活用について ○利用者目線で考える住民サービスについて(掲示物や窓口環境)	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	○今まで当たり前に行っていた業務が本当に必要なのか見直すキッカケになった。これまで業務の見直しや改善提案が管理職の理解を得られず実現に至らないケースがあったことから、管理職の理解のもと、無駄な業務の見直しや廃止を前向きに検討できる機運醸成につながった。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない 実際に生成AIを活用し日常業務の効率化や面倒な作業を省く具体的な方法を知る機会となった。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	本研修により、生成AIの高い性能や業務効率化の可能性について理解が進んだことから、今後は実際の操作や体験を通じて、業務改善にどのように活用できるかを具体的にイメージし、現場での活用につなげることを目的とした研修を実施したい。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 別添のとおり	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	①予算は確保済みであり、年度内に推進する ○AIを活用した業務効率化の推進 ○各課にDX推進リーダーをおき業務改善の成果を共有する場をつくる。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	管理職の理解のもと、生成AIやデジタルツールに関する庁内での情報共有や相談が活発になり、組織全体でDXを進める体制作り	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。

